

令和5年度  
(令和6年度入学生)

# 入学試験問題

◆ 推薦入学試験 ◆

試験日 令和5年11月9日

学科試験科目 「国語総合（現代文のみ）」  
「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ（リスニングは除く）」

◆ 一般入学試験 ◆

試験日 令和6年1月9日

学科試験科目 「国語総合（現代文のみ）」  
「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ（リスニングは除く）」  
「数学Ⅰ・数学A」

〈 静岡看護専門学校 〉

〒422-8074  
静岡市駿河区南八幡町8-1  
TEL：(054) 288-1230  
FAX：(054) 288-1390  
Mail：szk-kango@city.shizuoka.lg.jp

〈 清水看護専門学校 〉

〒424-0911  
静岡市清水区宮加三1221-5  
TEL：(054) 336-1136  
FAX：(054) 336-1135  
Mail：smz-kango@city.shizuoka.lg.jp

(推薦) 静岡市立静岡看護専門学校

令和六年度生 入学試験問題 (国語総合)

(答えは全て別紙の解答用紙に記入すること)

受験番号

氏名

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私たち研究者は、研究を進めるにあたって仮説というものを立てます。仮説とは、仕組みのあり方です。“このような”仕組みが存在すると考えれば、さまざまな現象をうまく説明できる。その“このような”想定を仮説と呼びます。

たとえば、昔の人は、精子の内部に小人が足をおりたたんだ“体育座り”で**a**ヒソ<sub>ン</sub>でいるという仮説を立てました。そう考えれば、受精と発生という現象をうまく説明できる。その小人が子宮でだんだん大きくなってヒトになるのです。実際、顕微鏡で精子を観察するとそのような小人が見えたという科学者まで現れました。

仮説は時として、人間の観察眼を曇らせてしまいます。曇らせるばかりではなくある方向に導いてしまいます。それを①**バイアス**といえます。科学史を繙くと、今から思えば、実に(Ⅰ)仮説に、当時、一流の一流とされた科学者たちがとらわれて多くの**b**メイソウ<sub>ウ</sub>が生まれました。精子の仮説もそのひとつです。しかし当時はみんなが大真面目で議論しあっていたのです。そして、実のところ、人間の思考はそれほど進歩しているわけではないのです。

確かに精子の中には小人が体育座りしているわけではありませんでした。そこに座っていたのは父方から来たDNAでした。それが母の卵子のDNAと合体すると発生が開始されます。しかし、わかったのはそこまでです。一体どうしてそこからヒトが形作られてくるのか、その仕組みのあり方は今のところほとんどすべて仮説の域を出ません。そして、私たちは今、精子の小人仮説を笑ってはいますが、分子生物学の最先端にいるような気がしても、未来の人びとからみれば、実に(Ⅰ)仮説に②**拘泥**しているに違いないのです。

実に悩ましいのは実験科学における「第一の誤り」と「③**第二の誤り**」ということです。

私たちはまず仮説を立てます。そして、その仮説を**c**ケンショウ<sub>ウ</sub>するために実験を

行います。仮説が正しければ結果はAとなり、誤っていればBとなるような計画のもと実験を立案します。研究者はもちろん自分の仮説にある程度自信を持っていますから、結果がAとなることを内心期待しています。

しかし、多くの場合、いや九五パーセント以上は、期待したような結果にはなりません。つまり結果はBとなります。この結果を④虚<sup>きよ</sup>心<sup>しん</sup>坦<sup>たん</sup>懐<sup>かい</sup>に解釈すると、それは仮説が間違っていたから実験結果がそうならないのだ、となります。これを「第一の誤り」と呼びます。つまり、そもそも仮説が間違っていたから実験結果もAとはなりません。

( X ) です。多くの場合、いや九九パーセント以上の科学者は、ああ、そうか、仮説が間違っていたのだ、とすぐに素直には認めません。むしろ彼もしくは彼女はこう考えます。私の仮説は正しいのだが、実験の方法が適切でないから期待される結果Aとならないのだ、と。

( Y )、仮説は正しいが実験のやり方が間違っていると判断されるのが「第二の誤り」です。実験のやり方が適切でない理由はいくらでも見つけられます。試薬の濃度が適切でなかったとか、測定器の感度が不良だったからとか、はたまた実験動物が風邪をひいていたせいだとか。

( Z )、研究者は、正しい実験を行おうと考えて、いろいろな条件を変えて実験を繰り返します。研究と呼ばれるものが非常なる長時間を要するのはそのためなのです。そして実験科学最大の問題点も実はここにあります。「第一の誤り」と「第二の誤り」は、dナイジツは正反対なのに、どちらも結果はBと出ます。つまり研究者にとって、期待どおりの結果にならないという現実からは、仮説が間違っているのか、実験が適切でないのか見分けがつかない、ということなのです。

かくして、不幸なことに、多くの場合、いや九九・九パーセント以上のケースでは、本当は誤っている仮説に固執して、( II ) 実験が繰り返されている、というのが科学研究の実態なのです。そして、本当に問題なのは、そこにeタダイな税金が投入されている、ということなのです。これは実際には利用者のいない場所に橋を架けたり、道を作ったりすることに似ています。そして、私もこの※陥穽<sup>かんせい</sup>の例外ではありません。私もたくさんの仮説をもとに研究を進めています。その多くは期待どおりの結果にはなっていない。つまり⑤この文章には重い自戒の意味が込められているのです。

(福岡伸一『ふたつの誤り』より)

※ 陥穽<sup>かんせい</sup>……落とし穴。ここでは、人が一度陥ってしまうとなかなか抜け出すことができない環境の意。

【問一】二重傍線部 a ～ e のカタカナを漢字で書きなさい。

【問二】文章中二箇所ある ( I ) には同じ言葉が入る。ここに最もよくあてはまる語を次の ア ～ エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 愉快な                      イ 卓抜な                      ウ 滑稽な                      エ 軽妙な

【問三】( II ) に入る語をいくつか考えてみた。次の ア ～ エの中から、前後の意味のつながりを考えた場合、あてはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 無意味な                      イ 不変な                      ウ 不毛の                      エ 無益な

【問四】( X ) ～ ( Z ) にあてはまる接続語の組み合わせとして正しいものを次の ア ～ エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア X Ⅱとところが                      Y Ⅱそこで                      Z Ⅱしたがって  
イ X Ⅱそこで                      Y Ⅱその結果                      Z Ⅱしたがって  
ウ X Ⅱそこで                      Y Ⅱつまり                      Z Ⅱその結果  
エ X Ⅱところが                      Y Ⅱつまり                      Z Ⅱそこで

【問五】傍線部①「バイアス」とあるが、この二行後にある点線部「精子の仮説」において、「バイアス」の結果として生じたと考えられるできごとがある。それについて書かれた一文を傍線部①より前の部分から探し出し、その最初の五字を書きなさい。(句読点等の表記記号も字数に含める。)

【問六】傍線部②「拘泥<sup>こうでい</sup>」の意味として最も適切なものを次の ア ～ エの中から選び、記号で答えなさい。

ア とらわれていること                      イ 勘違いしていること  
ウ 信じていること                      エ ひかれていること

【問七】傍線部③「第二の誤り」が生じる理由を筆者はどのように説明しているか。次の ア ～ エの中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 実験が、仮説の正しさを証明するのに適切ではないから。  
イ 仮説と実験のどちらが間違っているか、判断できないから。  
ウ 研究者が、自分の立てた仮説が正しいと強く信じるから。  
エ 研究者が最初に立てた仮説が、まちがっているから。

【問八】傍線部④「虚心坦懐」の意味が分からないので、似たような意味の言葉をその後の部分から探してみたところ、多分こういう意味だろうと思われる漢字二字の語が見つかった。その語を書きなさい。

【問九】傍線部⑤「この文章には重い自戒の意味が込められている」という表現から筆者のどのような思いがわかるか。その思いについて説明した文として最も適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 多くの研究者が自分の研究実績を上げることばかり考えているのを何とか改めなければならぬと思ひ、他の研究者仲間から非難されることも恐れずに、彼らが膨大な時間と税金を費やしている現状を訴え、告発しようとしている。
- イ 実験結果と仮説が食い違った場合、その根本的な原因が不分明である点に科学研究の難しさがあり、その結果多くの時間と税金を費やすことになるという現実を自らの問題として受け止め、その苦渋に満ちた思いを吐露している。
- ウ 科学が今日まで発達し、新しい発見や合理的な説明が次々に為されるようになったとしても、未知なる問題は依然として多く存在しており、研究の将来が明確に見通せることにはならないという絶望的な思いが感じ取れる。
- エ 研究者たちが間違った仮説を無理に証明しようとして莫大な税金を浪費している状況を自分も免れていないことを思い起こし、そのことに対する反省と弁明の思いを表明することで世の中の理解を得ようとしているものである。

【問十】科学研究の現状について、文章中で筆者が述べていることを次のア～エのよりに説明してみた。これらの中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 科学の進歩に伴い、後世の人々から嘲笑されるであろうような仮説を立てる研究者はいなくなったが、自分の仮説に固執しようとする姿勢は変わらない。
- イ 仮説を立て、その後の実験でその仮説の正しさを立証するという科学研究の基本的プロセスは、膨大な時間と費用を要するため見直される必要がある。
- ウ 精子の内部に小人が隠れているといった仮説の時代から、DNAの発見を経て、現代の生物学は生命の誕生の秘密を解き明かす段階にまで到達した。
- エ 実験によって仮説を立証する実験科学には多くの時間と費用が費やされるが、期待にかなう成果を挙げるのは、多くの研究者にとって容易なことではない。

二次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

※ かつて、群馬県上野村の私の家に、夜になると遊びにくる一匹の野ネズミがいた。自分で開けた壁の穴から暗くなると入ってくる。いろいろな遊びを考案しながら過ごし、朝になると山に帰る生活をしていた。柱をよじのぼり、私の肩に飛び蹴りをしたことがある。私の煙草たばこを持って行って、吸い方を考えていたこともある。残念ながら火をつけることがわからなかったので、目的は果たせなかったのだけれど。

何かをたくらんでいるときの表情は面白かった。部屋の隅で思案しているのである。

それを①「知性」と呼ぶなら、私は、すべての生き物たちの「知性」のレベルは変わらないと思っている。自分に必要なことはすべて知っているし、新しいたくらみも考案する。人間との違いがあるとすれば、お金がほしいとか持ち物や財産をふやしたいといった、自然界からはみだした a 過剰な欲望を持っていないことと、彼らの「知性」は「知性」だけで独立していなくて、身体の動きと一体になっていることだけだ。

※ 近代的な思想は、人間が持っている「知性」を（A）した。たとえば、近代哲学の父とも呼ばれたデカルトが、「われ思う、ゆえにわれあり」と述べたとき、それは、考えている私は確かに存在するという意味であり、私の本質は考えている私に、つまり私の本質は知性にあるということであった。そして、この知性こそが真理を発見していく力だと考えられた。デカルトは自然科学の b 信奉者でもあったけれど、科学がこの世界の真理を発見し、それらの学問をつくりだしていく力が知性であるという、知性に対する c 全幅の信頼がデカルトにはあった。

とすると、ここで述べられている知性はやはり人間だけの所有物だ。なぜなら、上野村の私の家を訪れた野ネズミは、いろいろなことを考え、たくらみを張りめぐらしてはいたけれど、自然科学を深めて真理を発見しようなどとは思っていない。自分の生きる世界こそが真理の世界なのであり、真理は発見する対象ではない。

ところで、②このデカルト的な思考は、仕事の d 捉え方にも影響を与えるようになる。

近代的な生産が始まると、人間たちの仕事は、生産システムをつくる仕事と、そのシステムのもとで働く仕事に分かれる傾向を示した。自然科学が発見したものは、生産の場所では生産技術になり、この生産技術をつくる人々と、その技術に従って作業をする人々とに分かれていく。経営システムをつくる人と、その経営システムのもとで働く人、そんな分化が進行した。

近代以前の仕事は③そういうものではなかった。職人は設計者でもあり、作業をす

る人でもあった。商人は自分の **e** 商いのあり方を自分で決めながら、日々の仕事をしていた。仕事のすべての部分が、労働の中に包みこまれていたのである。

ところが、近代的な生産では仕事の分化が始まる。そしてこの働きと、人間の知性を (A) する思想が結びついた。人間の労働が、知性を働かせた「知的労働」と「肉体労働」とに分けて把握されるようになったのである。「知的労働」が人間的な労働であり、「肉体労働」は肉体の消耗にすぎないという考えが、こうして定着していく。

私はこのような考え方が、人間の労働をやせ細らせていったのではないかと考えている。考えることと身体を動かすこととは、一つの労働の二つの側面にすぎなかったのに、この二つの側面が切り離されてしまった。たとえば、つくりながら考え、考えながらつくる労働が、考える人とつくる人とに分かれてしまったのである。

それは、第一に「肉体労働」をつまらないものにしてしまった。④ 決められた生産システムのもとで同じ作業を繰り返すだけなら、この仕事が面白いはずはない。とともに、「知的労働」も (B) 性のないものに変えてしまった。もしも「知的労働」が (B) 的なものであるとするなら、それは仕事の全過程にかかわりながら、考え、工夫をし、研究や開発をするときに生まれてくる。実際、仕事の全過程にかかわることができなくなったとき、「知的労働」は次第に、マニュアルに従って仕事をす

る方向に向かった。近代以降、経済は飛躍的に拡大したが、人間の仕事そのものはこうしてやせ細っていった。

(内山節『知性』より)

【問一】二重傍線部 a ～ e の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

【問二】文章中二箇所ある (A) と (B) には、それぞれ同じ言葉が入る。その言葉を次の **A** ～ **E** の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- |   |   |     |   |     |   |     |   |     |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| A | ア | 問題視 | イ | 度外視 | ウ | 重要視 | エ | 絶対視 |
| B | ア | 生産  | イ | 実体  | ウ | 創造  | エ | 独自  |

【問三】傍線部①「知性」にはかぎカッコ（「」）が付けられている。これはどういうことを示しているのか。そのことについて説明した次のア～エの文の中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 一般に用いられている意味とは異なるということを示している。
- イ 知性とは呼びにくいという筆者の気持ちを示している。
- ウ 特に優れた知性であると強調していることを示している。
- エ 人間の知性と何ら変わることがないということを示している。

【問四】傍線部②「このデカルト的思考」を説明した文として最も適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 知性は我々人間だけの所有物であり、他の生物の遠く及ばぬものであるという考え方。
- イ 我々人間の世界こそが真理であり、真理を発見の対象とすべきではないという考え方。
- ウ 我々人間の本質は知性にあり、知性こそが真理を発見していく力であるという考え方。
- エ 生きるのに必要な知性のレベルはすべての生物において同一のものだという考え方。

【問五】傍線部③「そういうものではなかった」とはどういうことか。次の文の（ ）にあてはまる言葉を五字以内で書きなさい。

近代以前の仕事は（ ）ものではなかった。

【問六】傍線部④「決められた生産システム」と同じような意味で用いられている言葉を文章中から探し出して、書きなさい。

【問七】次のア～エの文は、文章中の※～※の部分で、文章全体やその後の論旨展開に対して持つ働きについて説明したものだが、不適切なものが一つある。それを選び、記号で答えなさい。

- ア 平易で身辺雑記的な語り口は、その後の抽象的になりがちで、文明論的話題に向けて読者の興味関心を自然に促していく効果を持っている。
- イ 自宅を訪れる野ネズミの存在とそれへの言及は、人間の知が自然を逸脱した過剰な欲望に繋がるものであることを論ずる上で重要な意味を持っている。
- ウ 筆者自身が都会から隔たったところで生活しているという事実は、近代社会の問題点を批判的に論じる上で強い説得力をもたらしている。
- エ 自宅にやってくる野ネズミの描写は、筆者の観察眼と踏み込んだ解釈によってほえましく、またユーモアを感じさせるものになっている。

【問八】次のア～エの文の中から、文章中における筆者の主張と異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 知性こそが人間の本質であるという思想が、近代以降、知的な労働を偏重する考えと結びついた結果、労働はその魅力を失っていった。
- イ 人間以外の生き物は、存在それ自体において真理を体現しているが、人間はその知の力によって真理を発見していく存在である。
- ウ 近代以前の社会においては知的労働と肉体労働は一体のものであり、そこにこそ労働というものが本来持つべき意味も価値もあった。
- エ 人間も他の生き物も、すべての生物は知性を持っており、その果たす役割も自然界にもたらす影響も、何ら変わるところはない。

(推薦) 静岡市立静岡看護専門学校  
令和6年度生 入学試験問題 (コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ)  
※ 答えは全て解答用紙に記入すること

受験番号

氏名

第1問 下記の1～5のア～エの単語のうち下線部の発音が他と異なるものを1つ選び、記号で答えなさい。

- |    |                   |                    |                      |                   |
|----|-------------------|--------------------|----------------------|-------------------|
| 1. | ア. <u>color</u>   | イ. <u>science</u>  | ウ. <u>school</u>     | エ. <u>basket</u>  |
| 2. | ア. <u>pancake</u> | イ. <u>accident</u> | ウ. <u>captain</u>    | エ. <u>appoint</u> |
| 3. | ア. <u>chance</u>  | イ. <u>switch</u>   | ウ. <u>psychology</u> | エ. <u>chilly</u>  |
| 4. | ア. <u>potato</u>  | イ. <u>bottle</u>   | ウ. <u>sock</u>       | エ. <u>college</u> |
| 5. | ア. <u>sure</u>    | イ. <u>pressure</u> | ウ. <u>shirt</u>      | エ. <u>city</u>    |

第2問 下記の1～10の英文の各空所に入れる適切な単語を下記の語群から選び、記号で答えなさい。

1. A father-in-law is the father of someone's husband or ( 1 ).
2. I'll light the candles. John, ( 2 ) off the light.
3. Della and Jim sat ( 3 ) table. They enjoyed their dinner.
4. This is my niece, the daughter of my ( 4 ).
5. She switched ( 5 ) her bedside lamp and read the letter.
6. Here are quills. Take one or two and down to ( 6 ) a bed for you.
7. If you speak ill of others, you will ( 7 ) your own grave..
8. I will ( 8 ) my shirt before I wear it.
9. She was looking for her purse with a ( 9 ) frown.
10. Jane washed and ( 10 ) her hair.

語群

- |           |          |            |         |         |
|-----------|----------|------------|---------|---------|
| ア. sister | イ. iron  | ウ. worried | エ. turn | オ. on   |
| カ. dig    | キ. dried | ク. at      | ケ. wife | コ. make |

第3問 次の英文を読んで、下記の質問に答えなさい。

A child is a member of a family and can grow with the support of the family. A family is the place where children are raised and the essential environment for children. In England and America parents and children seem to be like friends. But in Japan most parents may have some authority to control their children. <sup>(A)</sup>From the point of view of controlling children, it might be said that Japanese children are deprived of some freedom by their parents.

Here shall we compare England and Japan with regard to education systems? The compulsory or required education in England starts at the age of 5 and ends at the age of 16. It consists ( 1 ) primary education and secondary education. The compulsory education is completed after taking national common examinations at the age of 16. The exam grades demonstrate the completion of the compulsory education. In Japan the compulsory education begins at the age of 6 and ends at the age of 15. When children complete the educational courses, graduation certificates are granted to ( 2 ) the completion of the compulsory education.

We are going to compare the contents of the educations of England and Japan. In England each student's personality is respected and teachers will help students to cultivate the ability to think for themselves and build their own lives. One of the educational ( 3 ) in the elementary school is called "project" in which pupils choose their own tasks, study them for themselves for several weeks or a term, and then write a report about it. The question of "Why?" is also important in England's education.

Compared ( 4 ) England's education, the compulsory education in Japan is focused on the memorization of knowledge and the examination is an opportunity to test students' memorizing ability. <sup>(B)</sup>The aim of the education is not to make much of students' characters and develop their thinking ability, but to build memorizing ability. Japanese students receive the education not for building their own ways of life, but for learning the way of life which their society ( 5 ). In such an education it cannot be said that children's freedom is respected.

( 6 ), we have compared the educational ways of England and Japan. In Japan the education might give students a place where they can learn how to adjust ( 7 ) their society while in England the education might lead students to live their own lives. The question seems to be whether children's freedom is respected or not. The way to educate children with the respect of their freedom might be related to the parent-child relationship at home. The parent-child relationship with the respect of children's freedom should be discussed ( 8 ) in Japan.

問1 本文中の(1)～(8)に入れる最も適切な単語を下記のア～エから選び記号で答えなさい。

- |     |              |             |              |             |
|-----|--------------|-------------|--------------|-------------|
| (1) | ア. at        | イ. of       | ウ. to        | エ. in       |
| (2) | ア. become    | イ. take     | ウ. prove     | エ. think    |
| (3) | ア. secrets   | イ. problems | ウ. questions | エ. features |
| (4) | ア. with      | イ. at       | ウ. to        | エ. of       |
| (5) | ア. considers | イ. requires | ウ. dislikes  | エ. finds    |
| (6) | ア. So far    | イ. Lastly   | ウ. Early     | エ. And then |
| (7) | ア. over      | イ. above    | ウ. under     | エ. to       |

(8)      ア. about                      イ. hardly                      ウ. least                      エ. more

問2 本文中の下線部(A)と(B)を日本語に訳しなさい。

問3 下記の1～10の英文の内容が本文の内容と一致する場合はTを、一致しない場合はFを解答欄に記入しなさい。

1. Japanese parents and children are like friends.
2. The required education in England begins at the age of 5.
3. In England students will take national common examinations when they are 16.
4. In Japan graduation certificates are given when students start the compulsory education.
5. “Project” is one of the educational ways in England.
6. In England students’ personalities are not made much of.
7. In Japanese education memorizing ability is important.
8. Japanese students learn how to live in their society through education.
9. In Japanese education children’s freedom is respected.
10. The parent-child relationship does not have anything with the way to educate them.

**第4問** 下記の日本語を英文になおしなさい。

1. 助けてくれてありがとう。
2. 今、何をしていますのですか？

(一般) 静岡市立静岡看護専門学校

令和六年度生 入学試験問題 (国語総合)

(答えは全て別紙の解答用紙に記入すること)

受験番号

氏名

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「生命」と「いのち」にも違いがある。「生命」は「生命現象」などとして観察や研究の対象になったりするが、「いのち」は愛<sup>め</sup>でるとか粗末にすることはあっても、研究の対象にはなりにくく、「いのちの探求」と言ってみても何のことかよくわからない。そして、「生命科学」と言えば、二十一世紀にもっとも注目される新たな知のフロンティアとされているが、「いのちを科学する」などというところ、 mismatches の興を a 狙ったテレビ番組のタイトルぐらいにしかなりそうにない。

この違いは、① みもふたもなく 言ってしまうえば、西洋的な抽象概念と日本語の実感的表現の違いである。それは無視しようと思えばできないことはないが、同時に② 越えがたい溝 でもある。抽象概念は科学や哲学とはなじみがよいが、実感的表現は日常感覚に溶け込んでいいる。では、科学で言うところの「生命」と日常的に言う「いのち」とは同じなのだろうか、違うのだろうか。

「生命科学」の教科書をひもといてみる。最初に「生物」の定義が出てくる。細胞でできていて、DNAで自己を複製するとか、環境からの刺激に反応するとか、エネルギー b タイシヤをするとかいったことだ。たいていは分子レヴェルか、せいぜい細胞レヴェルの話だ。最後に生殖のところに来て、はじめて器官レヴェルの簡略化した図が出てくる。つまり花の受粉図だ。

③ なるほど、「生命」とはこういうものか、とある種の感慨をもつて思う。 最近の生命科学の急速な発展で、いまでは免疫のメカニズムについても、遺伝子の発現のプロセスについても、驚くべき細部まで研究が進んでいる。そして、その成果が、病気の治療や予防などに応用されている。

けれどもその一方で、そのように研究される「生命」とは、ひとが生きる「いのち」とはやはり違うのだろうかという印象は c 拭えない。病気になるれば医者にかかり、生理学的な観点からはこれこれの支障が生じているから、それに対してどのような処置を

して病気を治すのだといった説明を受け、それを納得して治療を受けるのだが、人は分子レベルあるいは細胞レベルの「生命」を生きているわけではない。生きているのは、そう言ってよければ「ひとつのいのち」なのである。

端的に言えば、「生命現象」には個別化の契機はなく、特定のこのひとつといった観念にはなじまない。それはつねに部分的であると同時に一般的である。それに対して「いのち」というのはつねに個別化されていて、この「いのち」とか、あの「いのち」が語られる。そして、「いのち」のあり方はとりわけひとの生き死にと切り離せない。

生き死にのことを考えてみよう。よく「自分の死は体験できず、できるのは人の死だけだ。」と言われる。たしかにそうだが、だからといって死がdフカチな神秘だというわけではない。むしろ、この一般的真理から言えるのは、「死」がひとりの人だけで完結するものではないという事実だ。④ひとはひとりでは死ぬことができない、と言えれば奇異に響くかもしれない。けれども、これもまたよく言われるように、誰も人に代わって死ぬことはできず、死ぬのはそのつど「わたし」である。その「わたし」はしかし、死に瀕して「わたしは死ぬ」とは言えても、死ぬことを果たし終えて「ああ、私は死んだ」と言うことはできない。言いかえれば、「わたし」という語は、「死んだ」という完了形の主語になることはできないのだ。では、誰が「死んだ」と言いうるのか。それは、目の前で死のなかに消えていくひとを看取る身近なひとであったり、第三者をeカイして死が起こったことを確認する身内であったりする。死んでゆくひとに最後まで付き添いながらも、押しつけられて生の側にとどまるひとが、死を果たし終えずに死んでしまったひとを呑みこみ、持ち主もなく漂う「死」を受け止めて、その「死」を当人に返してやる。それが、「ああ、おまえは死んだ。」という言明の役割であり、そう言われることで当人の「死」は完了する。つまり、それでやっと「死」は起こったことになるのだ。だから「死ぬ」ということはひとりでは起こらず、⑤複数の人をこの出来事のまわりに呼び寄せ、その人ひとの間でわかち合われることによって起こる。だからこそ「死」は、たんなる生理学的指標に還元できる現象にとどまらず、人間的な意味を持つ出来事になるのだ。

誕生もまたこれに似ている。「生まれる」という語は辞書ではたいてい自動詞に分類されているが、じつはこの語で示されるのは「歩く」とか「歌う」といった自分だけでする行為ではない。「生まれる」を自分の行為のように思いなすのは、人間が自分ひとりで完結した独立した存在であるとみなす近代の錯覚である。英語でも「I was born.」と言い、フランス語でも「je suis né.」と言うように、「生まれる」も万国ほぼ共通に受身の表現なのである。少なくともそれと同型であって、そのあとに「誰それによって」と付け加えることができる。

つまり人間はひとりでは完結せず、その誕生と死において他者との関係に象られて

いる。その他者との関係性が、一人ひとりの人間をひとりの存在として、ひとつの「生」として成り立たせているのである。そしてその分有の仕方がそのつど違うから、ひとつひとつの「生」はかけがえがない。この「生」はたぶん「いのち」と言いかえてもいいだろう。少なくともその「生」の实质は「いのち」である。だから「いのち」はつねに **X** 的であると同時に **Y** でもある。それは長さを限られているという意味においてだけでなく、**⑥ 始めと終わり**を他者との「分有」に支えられているからである。

(西谷修『生命といのち』より)

【問一】二重傍線部 a、e の漢字にはその読みをひらがなで書き、カタカナはこれを漢字で書きなさい。

【問二】傍線部①「みもふたもなく」の意味として最も適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 多少難しい表現を用いて      イ 率直すぎて何の含みもなく  
ウ わからないなりにかみ砕いて      エ 細かい点を無視して簡単に

【問三】傍線部②「越えがたい溝」とあるが、「生命」と「いのち」の間に「越えがたい溝」があると筆者が言うのはなぜか。その理由について説明した次のア～エの文のうち、不適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「生命」は観察や研究の対象であり、科学的知の問題であるのに対し、「いのち」はあらゆる人々が直面する普遍的な「生き方」の問題であるから。  
イ 「生命」は全ての生物に共通する器官や細胞のメカニズムの問題として研究が進められるのに対し、「いのち」はそれを生きる人、固有の問題であるから。  
ウ 「生命」は支障を起こした器官や細胞が「処置」され「治療」されればよしとされるが、「いのち」は細胞や器官とは別次元の意味を持っているから。  
エ 「生命」は各生命体に共通する細胞や器官の発現や生成の仕組みに目が向けられるが、「いのち」は「共通」とか「一般化」にはなじまないから。

【問四】傍線部③「なるほど、『生命』とはこういうものか」とあるが、この表現に込められた筆者の思いを説明した文として最も適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア なるほど、「生命」とはこのように精妙にして複雑、かつ神秘的なものなのか。  
イ なるほど、「生命」とはこのように研究され分析され説明されるものなのか。  
ウ なるほど、「生命」とはこのように美しく、また限りなく尊いものなのか。  
エ なるほど、「生命」とはこのように「いのち」と深く関わっているものなのか。

【問五】傍線部④「ひとはひとりでは死ぬことができない」とあるが、この意味を説明した文として最も適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア ひとはひとりで死んでいく寂しさや恐ろしさに到底耐えることができない。
- イ ひとの死はそれを見届ける身近な人の眼差しや思いによって意味づけられる。
- ウ どんなに孤独の中で死んだとしても、ひとには必ず家族や友人、知人がいる。
- エ ひとがひとりで死んでいくのは、すべての人が甘んじて受ける運命といえる。

【問六】傍線部⑤「複数の人をくわかち合われること」を簡潔に表現した一単語を、この傍線部⑤より後の部分から探して書きなさい。

【問七】

X
---

と

Y
---

に当てはまる語の組み合わせとして最も適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア X……発展      Y……不変      イ X……抽象      Y……有限
- ウ X……具体      Y……有限      エ X……全体      Y……部分

【問八】傍線部⑥「始めと終わり」と同じ意味の言葉を文章中から探し出し、五字以内で書きなさい。

【問九】次のア～エの中から、文章中における筆者の主張を説明した文としては不適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人の死は、「死んだ」という事実のみで成立するのではなく、当人の死に立ち会い看取ることを通して、その近親者たちが、その動かしがたい死を確認し、自らを納得させ得たときに完結するものである。
- イ 人はそれ自身として独立し、完結した存在などではなく、家族や近親者たちとの関係性の中に、あるいは彼らひとりひとりが分かち持つ当人に対する固有の思いの中にこそ存在するものである。
- ウ 医学は急速に発展し、免疫のメカニズムや遺伝子発現のプロセスに対する研究も病気の治療法も驚くほど進んでいるが、それによって人の「いのち」に関わる問題が解決されるというものではない。
- エ 人間が自分ひとりの力で生きているという考えは近代以降の人々の思い上がりであり、私たちは周囲の人々の関係性の中に存在しているのだから、他者への感謝と共感の思いを持って生きるべきだ。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(1) (13) は段落番号)

① ひとりで勝手に掃除してくれるロボット、その能力を飛躍的に向上させるなら、わたしたちの仕事をいつか奪ってしまうのではないかと心配する向きもある。しかし、もうしばらくは大丈夫なのではないかと思う。一緒に暮らし始めてみると、その①〈弱さ〉もいくつか気になるのだ。

② 玄関などの段差から落ちてしまうと、そこからはなかなか這い上がれない。部屋の隅にあるコード類を巻き込んでギブアップしたり、時には椅子やテーブルなどに囲まれ、その袋小路から抜け出せなくなりそうになる。「アホだなあ……。」と思いつつも、そんな姿に何となくほっとしてしまふ。

③ こうした関わりの中かで、わたしたちの心構えもわずかに変化してくる。ロボットのスイッチを入れる前に、部屋の隅のコードをaタバねはじめ。ロボットの先回りをしては、床の上に乱暴に置かれたモノを取り除いていたりする。いつの間にか、部屋のなかはきれいに片付いている。このロボットの意図していたことではないにせよ、周りの手助けを上手に引き出しながら、結果として「部屋のなかをお掃除する」という目的を果たしてしまう。これも、まさしく〈関係論的なロボット〉の仲間だったのである。

④ 先に述べたように「コードを巻き込んで、ギブアップしやすい」というのは、一種の欠陥や欠点であり、本来は克服されるべきものだろう。しかし、その見方を変えるなら、このことは、「わたしたちに一緒にお掃除に参加するための余地や余白を残してくれている」ともいえるのだ。

⑤ 床の上のホコリを丁寧に拾い集めるのは、ロボットの得意とするところであり、わたしたちに真似はできない。一方で、ロボットの進行を先回りしながら、椅子を並べかえ、障害物を取り除いてあげることが、わたしたちの得意とするところだろう。一緒にお掃除しながらも、お互いの〈強み〉を生かしつつ、同時にお互いの〈弱さ〉を補完しあってもいい。

⑥ でも、どうして、このような連携プレーが可能なのだろう。一つにはこのロボットの「性格」から来るものではないかと思う。ぶつかるのを知ってか識らずか、部屋の壁に果敢に突き進んでいく。コードに巻きついて、そこからなかなか離れようとはせず、遂にはギブアップ……。そんな失敗を繰り返しても、懲りることがない。

⑦ ここしばらくの「利便性を追求する」というモノ作りの流れは、個々の〈弱さ〉を克服することに向けられてきたようだ。いわゆる「ひとりでできるもん！」(注)をめざそうというのである。そこで一面的な利便性は高まるように思うけれど、一方では②〈持ちつ持たれつの関係〉から遠ざかってもいるようだ。

8 例のお掃除ロボットがもつと**b**カンペンキにお掃除するものであったらどうだろう。もうコードに巻きついてギブアップすることもなければ、ちよつとした段差であれば大丈夫！ 誰の助けも借りることなく、きつちり仕事をこなしてくれる。そのことでわたしたちの手間もだいぶ省けることだろう。ただ、どうだろう。それでおしまひということにはならないようなのだ。

9 ③すかさず、「もつと静かにできないの?」、「もつと早く終わらないのかなあ」、「この取りこぼしはどうなの?」と、その動きに対する要求をエスカレーターさせてしまう。そうした要求に**c**コタえるべく、技術者も新たな機能の開発に勤しむことに。ロボットの高性能さは、わたしたちの( I )を引き出すのではなく、むしろ( II )のようなものを引き出してしまおうようなのだ。

10 〈お掃除してくれるロボット〉と〈それを使う人〉、その役割のあいだに線を引いた途端に、相手に対する要求水準を上げてしまう。こうした図式は、モノとの関わりに限らず、いま至るところに生じているようなのだ。

11 おばあちゃんの世話をするというなげないかわりが職業になった途端に、「もつともつと」と相手に対する要求を高めてしまう。その結果、〈介護する人〉と〈介護される人〉との間に垣根が生まれてしまう。あるいは、至れり尽くせりの講義を準備すればするほど、〈教師〉に対して「もつと大きな声で、もつと**d**テギワよく」と、〈学生たち〉からの要求がエスカレーターしてしまふこともある。

12 こうした場面に遭遇するたびに、④お掃除ロボットの気ままさやあつげらんとした姿もいいなあと思う。**e**ロウレンな教師ならばすでに心得ているように、「この説明ではだれも理解できないだろう……。」という講義も何回かに一度は許されてもいい。時には「えっ、なにこれ? ちよつとわからない。どうしよう……。」という学生たちの緊張感も必要だろうと思う。すこし緊張した関係性がむしろ豊かな学びを引き出しているようなのだ。

13 同様のことは、いま各方面から期待されつつある人工知能やロボットにもあてはまるものだ。自動で運転してくれるクルマというのも便利そうだけれど、いつも強がってばかりいてはどうかと思う。「ちよつと、こんな霧では自信ないなあ……。」とときどき弱音を吐いてくれたら、ドライバーもすこしは手伝ってあげようかという気になることだろう。「さすが、慣れたもんだね……。こんなところを器用に運転できるんだから……。」とつぶやく自動運転システムを横目に、ときには得意顔でドライバーがハンドルを握るような場面があつてもいいのだ。

(岡田美智男『弱いロボットの思考』より)

注……一九九一年四月から二〇〇〇年三月までNHK教育テレビで放送されていた番組で、子どもたちが家事や料理に自力で挑戦する様子を紹介した。

【問一】二重傍線部 a ㄣ e のカタカナを漢字で書きなさい。

【問二】傍線部①「へ弱さへ」とあるが、この言葉だけでは意味がはっきりしない。この「弱さ」をもう少し詳しく説明した部分を探し出し、十字以内でそのまま書き抜きなさい。

【問三】傍線部②「へ持ちつ持たれつの関係」とはどういう関係か。それについて説明した部分を文章中から四十文字以内で探し出し、その最初と最後の四字を書きなさい。(句読点等の表記記号は字数に含めない。)

【問四】傍線部③「すかさず」の意味として最も適切なものを、次のアㄣエの中から選び、記号で答えなさい。

ア 不満げに                      イ 直ちに                      ウ 威圧的に                      エ 反対に

【問五】(Ⅰ)と(Ⅱ)に入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを次のアㄣエの中から選び、記号で答えなさい。

ア	Ⅰ……好奇心や向上心	Ⅱ……醜さ
イ	Ⅰ……期待感や感動	Ⅱ……依存心
ウ	Ⅰ……自立心や責任感	Ⅱ……不信任
エ	Ⅰ……優しさや工夫	Ⅱ……傲慢さ

【問六】傍線部④「お掃除ロボットの気ままさやあつけらかなとした姿」を具体的に描写した一続きとなる三つの文を探し出し、その一番目の文の最初の五字と三番目の文の最後の五字を書きなさい。(句読点等の表記記号は字数に含めない。)

【問七】次の会話文は、岡君と清水君がこの文章を読んだ後で話し合ったものである。この会話文を読んで、後の問いに答えなさい。

岡    この文章はお掃除ロボットという、今、人気の商品を取り上げていて、とても親しみやすいし、わかりやすいね。

清水    そうだね。しかも、そのロボットの描写が、まるで同居する家族でもあるかのように(Ⅹ)化されているのも親しみやすさを増す要因になっているね。

岡 全くだ。それから、文章構成もすばらしいね。  
清水 文章構成？ どういうこと？ 具体的に説明してほしいな。

岡 人間対ロボットという固有の関係性から、広くA今日の社会における商品作りの基本精神へと話を展開し、さらには人と人との関係性へと話を深めているというところなんだけどね。

清水 そうか。なるほどね。その人と人との関係性ということでは、人間同士の関係というのは本来お互いの信頼と思いやりによって成立していると思うんだよね。それが、「くする人」と「くされる人」という形になって、文章中の筆者の言葉で言うと「Bその役割のあいだに線を引いた途端に」、一種のY関係に変わってしまうという点には怖いものがあるなあ。

岡 確かに。でも、逆に筆者は「機械であれ人間であれ、完全である必要はない。Cむしろ足りないところがあるほうが、そして、足りないところを助け合うほうが、より温かみのある関係を築くことができる。」という意味のことも言っていると思うんだけど、これにはとても勇気づけられるね。

(1) 右の会話文中の（ X ）にあてはまる言葉を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 親愛      イ 戯画      ウ 擬人      エ 比喩

(2) 傍線部A「今日の社会における商品作りの基本精神」を表している言葉を文章中から探し出し、十字以内で書きなさい。

(3) 傍線部Bについて、「役割のあいだに線を引いた」とはどういう意味か。次のア～エの中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 各役割の差異を固定化する      イ 役割同士を緊密に関係付ける  
ウ 役割と役割を引き離す      エ 各役割の特徴を明確にする

(4) 右の会話文中のYに最もよくあてはまる語を次のア～エの中から選び、記号で書きなさい。

ア 因果      イ 労使      ウ 主従      エ 利害

(5) 傍線部Cで岡君は、文章中における筆者の思いを「むしろ足りないところを築くことができる。」と説明しているが、このことが最も生き生きと描かれている段落を探し出し、その段落番号を書きなさい。

(一般) 静岡市立静岡看護専門学校  
令和6年度生 入学試験問題 (コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ)  
※ 答えは全て解答用紙に記入すること

受験番号

氏名

第1問 下記の1～5のア～エの単語のうち下線部の発音が他と異なるものを1つ選び、記号で答えなさい。

- |    |                   |                   |                    |                  |
|----|-------------------|-------------------|--------------------|------------------|
| 1. | ア. <u>laugh</u>   | イ. <u>taught</u>  | ウ. <u>tough</u>    | エ. <u>cough</u>  |
| 2. | ア. <u>weather</u> | イ. <u>feather</u> | ウ. <u>length</u>   | エ. <u>though</u> |
| 3. | ア. <u>thread</u>  | イ. <u>seed</u>    | ウ. <u>treat</u>    | エ. <u>steam</u>  |
| 4. | ア. <u>police</u>  | イ. <u>purpose</u> | ウ. <u>color</u>    | エ. <u>month</u>  |
| 5. | ア. <u>cottage</u> | イ. <u>problem</u> | ウ. <u>together</u> | エ. <u>topic</u>  |

第2問 下記の1～10の英文の各空所に入れる適切な単語を下記の語群から選び、記号で答えなさい。

1. He is a famous baseball player. He seems very sure ( 1 ) himself.
2. If you will be more careful, you can make up ( 2 ) this mistake.
3. A novel is a ( 3 ) story, long enough to fill a complete book.
4. To ( 4 ) means to think about something in order to make a decision.
5. Jane is going to come back home ( 5 ) 10 minutes.
6. Anyone is sure ( 6 ) fail if he or she does it that way.
7. You can meet him at the party the day ( 7 ) tomorrow.
8. A poem is a piece of creative ( 8 ) in verse, expressing deep feelings.
9. To ( 9 ) is to talk or write about something.
10. He quarreled with his wife but soon he made up ( 10 ) her.

語群

- |            |            |          |             |            |
|------------|------------|----------|-------------|------------|
| ア. written | イ. in      | ウ. of    | エ. with     | オ. discuss |
| カ. for     | キ. writing | ク. after | ケ. consider | コ. to      |

第3問 次の英文を読んで、下記の質問に答えなさい。

Queen Elizabeth the second passed away in 2022. In U.K. the new king, Charles the third, has been enthroned. However, in the United States, the president has the political power that the Democratic Party and the Republican Party always struggle for. Thus, both are the same English-speaking countries, but Britain is a kingdom and America is a republic. In a kingdom a king ( 1 ) a queen governs a country and in a republic a president does. Considering the presence of kings and presidents historically, what can we find?

<sup>(A)</sup>As for the numbers of kings and presidents in the world, there are about 20 kings and more than 140 presidents for the time being. Many kingdoms have been reformed into republics historically and now many presidents govern their nations. But the first nation might have begun as a kingdom in ancient Egypt and Mesopotamia while the first president came ( 2 ) in the United States of America. The first president of the US was George Washington and the presidential system was established in the eighteenth century. So, it has been only about 250 years since the system began.

<sup>(B)</sup>Speaking of the nation whose head is the king and the nation whose head is the president, what is the difference between them? One of the main differences might be whose the nation is. In the case of Japan, the emperor had its sovereignty ( 3 ) the Second World War. But after Japan was defeated in the war, democracy was introduced ( 4 ) America and Japanese sovereignty has been handed over to the people. And under the new Japanese constitution Japan adopts the political system of the constitutional monarchy with the emperor as the symbol of the nation. In the condition that a king reigns but does not rule, the U.K. and Japan adopt the same political system. As a ( 5 ) we can understand whether a nation is controlled by a particular person or the people makes a difference.

In England the Puritan Revolution ( 6 ) out in the seventeenth century. The English Puritans executed King Charles the second and built a republican nation. But, by the restoration of monarchy Britain returned to a kingdom. The French Revolution occurred in the eighteenth century and France was transformed into a republic. Thus, many countries in the world have been changed into republics ( 7 ) the highest power is held not by kings but by the people.

Historically speaking, nations have ever changed from kingdoms to republics. As for republics, socialist states exist as well as democratic states. Therefore, the head of a nation is not only a president. But, the people have the national sovereignty in both of them. What can we understand here? ( 8 ) the political system is, if the people had not the sovereignty of their nation, a revolution would occur. Nations will change for freedom from dictators.

問1 本文中の(1)～(8)に入れる最も適切な単語を下記のア～エから選び記号で答えなさい。

- |     |            |          |           |          |
|-----|------------|----------|-----------|----------|
| (1) | ア. and     | イ. nor   | ウ. or     | エ. but   |
| (2) | ア. up      | イ. out   | ウ. on     | エ. to    |
| (3) | ア. before  | イ. since | ウ. by     | エ. after |
| (4) | ア. into    | イ. to    | ウ. for    | エ. from  |
| (5) | ア. way     | イ. sense | ウ. result | エ. plan  |
| (6) | ア. brought | イ. broke | ウ. went   | エ. blew  |

(7) ア. where                      イ. when                      ウ. that                      エ. what

(8) ア. However                      イ. Whenever                      ウ. Wherever                      エ. Whatever

問2 本文中の下線部(A)と(B)を日本語に訳しなさい。

問3 下記の1～10の英文の内容が本文の内容と一致する場合はTを、一致しない場合はFを解答欄に記入しなさい。

1. The Republican Party and the Democratic Party struggle for the political power in America.
2. In a republic country a king governs the country.
3. Many kingdoms have been changed into republics.
4. The presidential system was established in U.K. in the eighteenth century.
5. The emperor has the sovereignty in Japan.
6. Since the World War II Japanese sovereignty has been handed over to the people.
7. The U.K. and Japan adopt different political systems.
8. The Puritan Revolution happened in England in the seventeenth century.
9. The French Revolution caused France to be a republic.
10. A king has the national sovereignty in a socialist state.

第4問 下記の日本語を英文になおしなさい。

1. 彼は将来看護師になろうと思っています。
2. 彼女は毎日野菜を食べています。

(一般) 静岡市立静岡看護専門学校

令和 6 年度生 入学試験問題 (数学 I・数学 A)

受験番号

氏名

注意事項

1. 解答は、答だけを別紙の解答用紙に記入して下さい。
2. 計算には別紙の計算用紙を使い、計算用紙は持ち帰って下さい。
3. 問題は、声を出して読むではいけません。

問題

1 次の (1) ~ (6) に答えなさい。

(1)  $a^2 - b^2 - c^2 - 2bc$  を因数分解せよ。

(2)  $\frac{\sqrt{3}}{\sqrt{5} + \sqrt{3}} - \frac{\sqrt{5}}{\sqrt{5} - \sqrt{3}}$  を計算せよ。

(3) 全体集合  $U = \{1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8\}$  の 2 つの部分集合  $A$  と  $B$  について、 $A \cap B = \{1, 5, 8\}$ ,  $A \cap \bar{B} = \{3, 6\}$  であるとき、 $A$  を求めよ。

(4) 放物線  $y = 2x^2 + 4x + 3$  を  $x$  軸方向へ 4,  $y$  軸方向へ  $-2$  だけ平行移動した放物線の方程式を求めよ。

(5) 円に内接する四角形  $ABCD$  において、 $AB = 3\sqrt{2}$ ,  $BC = 4$ ,  $CD = \sqrt{2}$ ,  $\angle ABC = 45^\circ$  であるとき、辺  $AD$  の長さを求めよ。

(6) 次の 5 個のデータの平均値  $\bar{x}$  と標準偏差  $s$  とを求めよ。

1.5, 1.1, 0.7, 1.9, 1.3

選択問題 2, 3, 4 につづく

## 選択問題

次の問題 **2**, **3**, **4** の中から、2 題を選択して解答しなさい。

**2** 3つのアルファベット  $a, b, c$  と3つの数字  $1, 2, 3$  をすべて使って、6文字のパスワードを作る。このとき、次のようなパスワードは何通りできるか。それぞれ答えよ。

- (1) アルファベットと数字が交互に並ぶパスワード。
- (2) 両端の少なくとも一方が数字であるパスワード。

**3** 次の (1), (2) に答えよ。

- (1) 60 の正の約数の個数を求めよ。
- (2) 10 の倍数で、正の約数の個数が10である正の整数をすべて求めよ。

**4**  $AB = AC = 13, BC = 10$  である二等辺三角形  $ABC$  について、次の (1), (2) に答えよ。

- (1)  $\triangle ABC$  の面積を求めよ。
- (2)  $\triangle ABC$  の内接円の半径を求めよ。